

孫文記念館事務局長就任のごあいさつ

公益財団法人 孫中山記念会 常務理事・事務局長 川鍋彰男



7月1日に事務局長に就任しました川鍋彰男です。どうぞよろしくお願い致します。

私は、兵庫県の国際交流部門で長く勤務させていただきましたので、記念会の活動については以前から少し承知していました。また、移情閣コーラス同好会が兵庫県国際交流協会の交流の集いなどに参加され、活発に活動されている様子も拝見して参りました。その関係で友の会には旧知の方もおられますので、これから、記念会事務局として皆様と交流させていただくこと

を楽しみにしています。安井三吉・孫文記念館名誉館長は、孫文記念館を支える五角形モデルを明確にされています。即ち、華僑、行政、実業界、研究者そして市民の五者がお互い協力して記念館を支えるというものです。友の会の皆様には市民の代表として孫文記念館を盛り上げて頂きたいと願っています。今年孫文生誕150周年記念事業が盛りだくさんです。事務局としては、この機会に移情閣の名声を高めたいと願っています。皆様方の温かいご支援とご指導を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

企画運営副委員長の任にあたって



三上 隆

本年度友の会企画運営副委員長を仰せ付かりました三上 隆です。友の会への入会は、中国文化同好会の橋雄三様からお誘いを受けて入会させていただきました。世紀の変わり目や

辛亥革命100年など孫文記念館を通じ取材などから「三上豊夷」について興味を持つようになり、孫文記念館関係の講演やイベントに参加させていただく中で、今回の企画運営副委員長のご推薦をいただくようになったと思います。

孫文記念館は歴史的な存在でありながら身近な存在でもあります。特に、舞子周辺の方々の孫文記念館への存在に対する認知の高さと愛着を感じていると思います。私は、塩屋の祖母の家から舞子ビラに行くときに六角堂を見ていたように思う程度ですが、「六

角堂」という言葉は記憶に残っていました。多くの方が「六角堂」を知っていることから「舞子のランドマーク」になっているのではないのでしょうか。また、明治から外国から神戸に移り住んでこられた方の中、華僑の方も多くおられました。このような環境の中で私も育ちました。いろいろな地域出身の華僑の方が、仲良く協力されている神戸は魅力的な都市だと思います。

現在、後藤企画運営委員長は、積極的に国際交流を広げるべく留学生・大学生・高校生との交流に取り組んでおられます。また、今年孫文生誕150周年にちなんで8月19日から台湾国父紀念館と交流事業を進められています。これまでの関係者のご努力により「友の会」が市民レベルでの交流団体としての認められているからだと思います。このような時期にお手伝いをさせていただけることをうれしく思っております。孫文記念館でのイベントなどで見かけられましたら、声をかけていただければ幸いです。



中西 敦彦


副委員長の中西 敦彦です。太極拳同好会に所属していた2014年度の企画運営委員として友の会行事のお手伝いをしてきましたが、この度、後藤企画運営委員長からお話があり、副委員長をやらせて頂くことになりました。

副委員長は、今年度二人とも交代となります。中国文化同好会代表の三上 隆さんと役割分担をして皆様のご協力を頂きながら、河合 純子副会長が総会の閉会あいさつでご提言のように、友の会活動は地域との連携の方策を模索していきますよう、友の会のために働きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

2016年度移情閣友の会組織構成

役員と事務局	(会長) 林 同福 (副会長) 河合 純子 (顧問) 山田 敬三 <企画運営委員会> (委員長) 後藤 みなみ (副委員長) 三上 隆 中西 敦彦 (委員) 石井 千寿 (二胡) 内山 茂樹 (論語と漢詩を学ぶ) 宇野 浩二 (移情閣中国語講座) 島田 楊子 (コーラス) 園田 昊 (神戸舞子学院) 中山 文 (越劇) 吉村 晴夫 (中国古代史) 若林 明 (囲碁) 新井かおる 宮本 博 * () は同好会代表・世話人 (監事) 九野 早智子 鳥本 次郎 (事務局) 西山 恵美子 渡利 慶昭 (会計) 畠田 裕子
--------	---

中国文化同好会 2016年1月～9月分活動報告 並びに 計画

行事	月日	行事内容
1月例会	1月17日	「中国トン族の習俗ー広西三江県の事例を中心にー」 中国 広西大学専任講師 坂田一浩氏 トン族廊橋→ 人口300万人弱。貴州、湖南、広西に分布。1.衣食住及び生業 2.さまざまな行事 3.恋愛及び婚姻習俗 4.禁忌・信仰 5.伝統文化継承の現状などについてお話いただきました。 
新春のつどい	1月31日	■友の会主催 於:天安閣(神戸駅前) 50名近い参加がありました。講演「中国食文化と中華料理」と料理講習のあと、親睦会では、二胡やコーラスの出演もあり、楽しい時間が過ごせました。つどいの中、後藤委員長による参加者一人一人の紹介に会場は盛り上がりを見せました。
2月例会	2月21日	「行って見て食べて感じる私の故郷瀋陽」中国語講師 于亜氏 瀋陽は中国東北地方の中心都市で、遼寧省の省都、人口800万人。その歴史、市民の生活、習慣、文化について、最新の情報を画像を交えてお話いただきました。右は瀋陽の地下鉄。さすが、清朝発祥の地。車内の絵は順治帝かと思われます。 
3月例会	3月20日	「金門島の話」孫文記念館研究員 蔣海波氏 兩岸のはざま、厦門から8kmという位置にある金門島。面積は小豆島ほど。人口13万人。文化的には福建省南部の影響が色濃く残っています。その歴史と現在、風俗・社会、人々の生活等についてお話いただきました。 
総会&講演	4月17日	[2016年度役員]○代表 兼 友の会企画運営委員:三上隆 ○幹事:久留島信泰、藤原紀子、渡利慶昭 ○会計:橋雄三 [講演]「しあわせを呼ぶ風水」風水研究家 張真紀氏 ■三把刀の家庭に生まれた華僑三世。ラジオやテレビなどで祖父口伝の風水学を個人的に展開中。神戸在住 1.風水とは 2.風水の成り立ち 3.移情閣を風水から読み解く 4.現代社会の中における風水 5.マスメディアでの風水師裏話 6.今日からはじめる風水3カ条などについて、興味深い話が聞けました。
5月例会	5月15日	「成都・台北留学体験記」友の会会員 宮本博氏 宮本氏は2014年は四川大学へ、15年は台湾の淡江大学と国立台湾師範大学へ留学されました。中国語学習の苦労話や学友との交流が印象に残ったとのこと。彼の高齢になっての向学心、積極性に感服しました。 
6月例会	6月19日	「詩人草野心平と中国」孫文記念館名誉館長 安井三吉先生 汪精衛政権の宣伝部に勤め、さらに1956年には文化使節団副団長として新中国の各地を訪れ、『点・線・天』を書くなど中国と深い関わりを有した詩人、草野心平について、生涯の詩友黄瀛や高村光太郎との交流にもふれつつ、お話いただきました。
7月例会	7月17日	「小説『秘色の碗ー楊貴妃が愛した日本人』とその背景」友の会会員 吉村晴夫氏 上掲小説が吉村氏ご自身の作とは驚きです。「阿倍家に伝わる家宝、青磁“秘色の碗”に魅せられ阿倍仲麻呂は唐に旅立った。楊貴妃との愛、栄光と没落の人生をたどった玄宗皇帝、漂泊の天才詩人李白など、奈良と唐の時代を背景に、仲麻呂を巡る古代人たちの人間ドラマを描いてみました」(吉村氏)
9月例会	9月18日	「私の台湾時代とそれから」移情閣友の会 企画運営委員長 後藤 みなみ 台湾で生まれ26歳まで暮らしていた後藤さんは、当時の台湾を振り返る。1984年から日本で暮らしはじめて見える台湾とは。その後、日本国籍を取得され、元外国人から見た日本や移情閣友の会とかかわってわかるものとは何かについてお話いただきます。

■10月、11月例会はありません。友の会主催「移情閣まつり」「孫文2016」の講演をお聴きください。